

自己評価					
学校運営計画(4月)				評価(総合)	
学校運営方針	校訓「立志」・「忠恕」・「而今」に掲げる精神を理解するとともに、多様な個性を尊び、未知なるものに挑戦できる人材の育成			A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
深い学びにつながる授業改善を促進し、学力向上に努めた。また、生徒の安全を確保しながら積極的に体験活動を実施した。中高一貫教育校として、高校と連携して中高一貫教育カリキュラムの充実に努め、生徒主体の自主的な活動を推進する。そして、附属中として新たな文化を創造し、地域の期待に応える人材育成を実践する。	「礼節」、「主体性」、「創造性」、「多様性を尊重する姿勢」を兼ね備えた生徒の育成を図る。	○授業、潤陵祭(文化祭)・大運動会等の生徒会行事及び部活動を充実させることにより、生徒の「礼節」、「主体性」、「創造性」及び「多様性を尊重する姿勢」を育成する。			
	言語環境を適切に整備し、人権教育を推進・充実することにより、生徒の人権意識を向上させる。	○人権に係る研修会を定期的に開催し、生徒及び職員の適切な言語環境を整備することにより、職員及び生徒の人権意識を向上させる。			
	生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、教員は深い学びに繋がる授業を実践することにより、生徒の「思考力」「判断力」「表現力」の育成を図る。	○各教科のシラバスを整備し、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を向上させる。 ○全職員が「深い学びに繋がる問」を自己評価の項目に位置付け、年間を通して研鑽に取り組む。			
	授業と評価方法の改善により、指導と評価の一体化を図り、新たな時代が求める学力を育成する。	○各教科が「卒業時の到達目標」及び「学年終了時の到達目標」を適切に設定することにより、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、指導と評価の一体化を図る。 ○科学・情報プログラムを通して、AIを活用し課題解決を図ることができる能力を育成する。 ○産官学連携による本校独自の学問「いづか学・e-zuka学」を通して、本物に触れることを重視した探究活動や多彩な講師による講演会を実施し、自ら将来設計を行うキャリアプランニング力を育成する。			
「嘉穂Dream Compass」を軸として、生徒の個性や能力を引き出し、生徒の第一希望進路の実現を図る。					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務部	生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を向上させる。	・各教科のシラバスを整備・活用し、生徒が見通しを持って学習することができるようにする。 ・各教科が到達目標を設定し、生徒の学力の把握と到達目標の共有を行う。	B A	A	活用法について各教科で研究し工夫を行う。 6年間を通したカリキュラムの検証を行い、適宜修正改善を図る。
	授業と評価方法の改善により、指導と評価の一体化を図る。	・研修部との連携を密にし、「深い学びにつながる問い」をテーマとした授業を全教員で行う。 ・授業アンケートの実施を通じて授業改善を図り、基礎的知識・技能を身につけさせる授業を行う。 ・知識・技能を確認する問いや深い学びにつながる問いを設定し、問題解決や自らの考えを広げるような視点に立った考査問題を出題する。	A A A		継続して取り組み、さらに質の高い授業をめざす。 日頃から生徒の状況を把握し、指導と評価の一体化のを図る。 考査問題をきめ細やかにチェックし、定期考査の質の向上を図る。
研修部	「深い学びに繋がる問」について研修を実施する。	・「深い学びに繋がる問」を全教員のテーマとした授業を行う。 ・一人一回、公開授業を行い、授業改善につなげていく。 ・生徒への授業アンケートを年2回実施し、日々の授業改善に活用する。	A A A	A	「深い学び」に関する資料を定期的に紹介できるようにする。 公開授業の取組を継続し、授業研究を深める。 日頃から生徒の実態を分析し、指導内容や指導方法の改善を図る。 ニーズの高いテーマに沿った研修を積極的に実施していく。 ICTを活用して、公開授業日程や資料を共有する。
	中高合同の職員研修を計画的に行い、連携を強くしていく。	・中高合同の「深い学びに繋がる問」について職員研修を定期的に行う。 ・中高で相互に授業参観を行い、情報共有を行うことで授業改善につなげていく。	A B		
キャリア教育部	KDCキャリアプランニングプログラムにより、自分を見つめさせ、志の育成を目指す。	・一人一研、課題研究の探究活動を充実させ、探究の過程の中で自分を見つめさせる。 ・幅広い研究領域に対し個別指導の充実に努める。 ・AIの活用、修学旅行、宿泊研修、大学訪問などの体験活動における学びを充実させる。	A B A	A	目標達成点を示し、見通しや振り返りが適宜行えるようにする。 個別指導をきめ細かく行う中で、生徒の発展的な研究を個々に促していく。 体験活動が充実するための企画を随時見直ししていく。 模擬試験の成績状況について意見交換することを活発に行う。 中高合同の教科会を実施し、情報を共有し学力の向上に努める。
	中高連携を促進し、一貫生の学力向上に努める。	・中高で教科ごとに、模擬試験の成績分析を行う。(9月・3月) ・中高で教科ごとに、進級時の課題について確認を行う。	B A		
生徒指導部	生徒が主体的に礼節を重んじた行動ができるようになる。	・全校生徒が積極的に挨拶ができるように、モデルとなる挨拶を率先して行う。 ・学級活動や道徳の時間、エンカウンター授業を通して、相手を尊重する気持ちの大切さに気づかせる。	B B	B	教師と生徒同士で確認しながらよりよい挨拶ができるようにしていく。 授業だけでなく、色々な場面においても相手を尊重した行動を促す。
	生徒会活動や部活動に主体的に取り組むことができるようになる。	・生徒会を中心に、各委員会活動を積極的に行わせ、リーダー性を育む。 ・積極的に部活動に参加する生徒の育成を図るために、部活動の内容を検討していく。 ・潤陵祭、大運動会など学校行事を実行委員会を中心に、生徒主体で企画・運営を行わせる。	A B A		今後継続して、生徒会を中心とした学校運営を目指す。 部活動の加入率だけでなく、活動内容の再検討を行う。 次年度も高校と連携して、生徒主体の学校行事を実施する。
人権特別支援教育部	言語環境を整え、人権教育を推進・充実することにより、生徒の人権意識を向上させる。	・言語環境を大切に、すべての教育活動において生徒の人権を尊重する教育を行う。 ・人権に係る研修会を開催し、人権意識の向上を図る。 ・定期的に会議を開き、チェックシートをもとに生徒・教師の言語環境を点検していく。	A B B	B	言動を教師同士で点検しながら生徒と教師の望ましい人間関係を構築に努める。 研修会を通じて、共通認識を図り、チームで取り組む雰囲気醸成する。 「学校生活アンケート」等を活用し点検を行うことで、組織的に取り組む体制を強化する。
	合理的配慮を施し、全ての生徒が生活しやすい環境を整える。	・定期的には校内委員会を実施し、全職員で生徒の実態把握や指導の共通認識を図る。 ・スクールカウンセラーや専門機関と連携し、個に応じた支援ができるように指導工夫・改善に努める。 ・定期的な教育相談やアンケートを実施し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握して生徒の個性を伸長する。	A A A		来年度も継続し、実態に合わせて、より適切な対応ができるようにする。 保護者や生徒に向け、SCや専門機関についての情報をより発信していく。 生徒の情報を共有し、全職員で個に応じた対応をしていく。
第Ⅰ学年	学年スローガン「継続は力なり」の精神のもとに、6年間の意義ある学びについて見通しをもち、意欲的に取り組む姿勢を培う。	・道徳や学活などの時間の充実を図り、他者を思いやる心や状況に応じてふさわしい言動がとれるようにする。 ・基礎・基本の定着、提出物の丁寧な指導、深い学びの充実を図る。 ・参加型学習を多く取り入れて、自己表現の機会を増やし、心地よい帰属意識の醸成を図る。	B B A	B	言語環境の充実を目指し、状況に応じて適宜学びにつなげていく。 基礎基本の徹底と深く考える場面を充実させる。 企画を充実させ、参加型学習により、多角的に学ぶことに努める。
	第Ⅱ学年	学校教育活動全体を通して、他者を思いやる心育て、その場にふさわしい言動をとる生徒を育成する。 ・生徒が共に学び課題解決に取り組む機会を取り入れ、基礎・基本の定着と深い学びを充実させる。 ・課題研究や宿泊研修等を通して、集団における自分の役割を理解しようとする態度を養う。	B B A		B
第Ⅲ学年	「今こそ出発点」をスローガンに、初心を忘れず、最上級生として正しい判断のもとに行動できる生徒の育成を図る。	・学校の教育活動全体を通して、自己の行動を振り返りながら、状況に応じて適切な言動をとる生徒を育成する。 ・様々な場面で体験的な活動を多く設定し、生徒一人一人が役割を自覚し、リーダーシップを発揮できる場を設ける。 ・基礎基本の定着と深い学びの充実を図りながら、自主的に課題を見つけ、自ら学ぶとする生徒を育成する。	A A B	A	最上級生として模範となる行動ができるよう、継続して指導を行う。 生徒主体で行う場面を設定し、より多くの生徒が活躍できる場を充実させる。 生徒が見通しや振り返りが持てるような支援の仕方をすすめていく。

学校関係者評価	
評価(総合)	項目ごとの評価
A	自己評価は A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である
	学校関係者評価委員会からの意見
	シラバス、到達目標が明確に示されており、適切にカリキュラムの検証が行われている。
	授業研究に熱心に取り組む、授業改善が適宜なされており、生徒の深い学びに繋がっている。
	体験活動、探究活動の充実に熱心に取り組んでおり、成果を上げている。
B	生徒の主体性を育む活動が充実している。今後は、生徒間の自他を尊重した関係作りが進むよう取組のさらなる充実をお願いしたい。
A	言語環境の整備に努め、人権に配慮した教育活動が行われている。
A	生徒や保護者への支援が厚く、また丁寧に行われている。
A	丁寧な学習指導、生徒指導が行われている。
A	学級づくりに熱心に取り組んでおり、学全体により効果をもたらしている。
A	リーダーシップの育成に熱心に取り組んでおり、学年づくりによい影響をもたらしている。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・適時の学力の分析により、授業改善を進め、質の高い授業を実践していく。
- ・学習や学級活動、部活動などのすべての教育活動において、協働する体験を積み重ねさせ、自他を大切にしながら適切なコミュニケーションを図る力を育成する。
- ・言語環境の整備が人権感覚の育成に寄与しているので、今後も引き続き言語環境の整備に努めていく。
- ・リーダーシップの育成については、学校行事での実行委員会や生徒会活動のさらなる活性化を図っていく。

評価項目以外のものに関する意見